序

大橋慈譲

私は、昭和二十五年七月に、畑毛の雲山荘を訪問し、爾来、亨師御遷化まで、何かと呼ばれて、御書の編纂に助手となったり、川渡温泉逗留（昭和二十七年七月二十八日午前九時三十五分・上野発乗り午後六時古川巴川宅着）に同伴したり、富士宗学要集解題（昭和三十年十月十六日第一回開始）を着手し、若手有志一同を糾合して、毎月一回、御講義を承け給わるなど、お側近くでお仕えした。

亨師は人も知る要集の編者として、本宗近代唯一の碩学である。その識見の高邁さは、偏く人の知る所である。私は、亨師の何か重要なるお話があると、ノートの端々に書き留めてきた。何時か、「有師聞書」「ゲーテ・㊀エッカーマンの対話」の如く集録して遺し度いと思った。（然し、それも途中より考えた事であるが）若し、最初から計画して、日付順に書き留めたら、数多く遺せたものをと、悔やまれてならぬ。

然し、せめてこれだけでも収録出来た事は、不幸中の幸いである。宗門内部の動きが多く、公開に適さないが、然し、それだけに信仰と俗世間との具体的事例が多く、吾らは何を為すべきか、亦た如何にあるべきかに就いて、示唆する点、大いに大なるものがある。物事は、真相を知らねばならぬ。虚構はあくまでも理であって、如実の相を知る事に依って、正しい指針・進退も生まれてくる。本宗に於ける無作本有を尊ぶのも、その辺にその精神がある。見る者よ、誤解する事なく習学すべし。

昭和五十二年七月二十七日
神奈川県相模原市橋本二の十三の五
妙縁山　正継寺にて記す
筆記者　大橋慈譲　記

亨師談聴聞記

＊福重照平師の本仏論は、禅観に傾いている。
＊君等が法門を学んでいるうちに、吾等（亨師等）より進んだものが発見されるであろう。そうでなくてはならぬ。信仰に依って立てられるならば、それは何らかまわぬ。
＊天台の六即等は、ぶち壊して全く新しい事を云っても差し支えない。

昭和二十五年七月二十七日

亨師曰く。

＊古来、富士門流で、本仏を主張したるのは、当時、造仏が行なわれていたので、それを破斥する爲に、寿量顕本の本仏を主張し、随伴して宗祖本仏が行なわれてきた。宗祖在世に於ても、始めたのは、法師品の八十万菩薩の一人として、次いで法華経の行者と云われたのである。

立像を破斥する爲に寿量顕本が必要であった。宗祖己心の法義と弟子共との間には、相当の間柄（あいだがら＝かんかくのこと）があるので、内心（内証のこと）をあけられていない。処が、開山上人は常随給仕していたので、相伝書を賜れ、亦た口伝せられたのである。

三位日順は、相当の学者であるが、天台学の人である爲に、そこにはいくらか開山上

にある。十二箇条の相承文は、一面、文章であるから口決相承でなく経巻相承であろうが、最初、宗開両祖の頃始まった時は、それが口決相承であったと思う。然し、此れは一切経・御書・相伝書を完全にマスターした時、始めて生きてくる。それも自己が得た法門が正しいか正しくないか、確かめる工合にしかない。単なる一言であると思う。

然るに現今の本宗では、皆なその様な努力、特に少青年期の勉学なくして口決相承を受ける。そこには、漏器・破器であって、真に完器であったものは、有師・寛師等の十本の指に数えられる程しかなかったものであろう。それが今日の宗門の間違った唯授一人の血脈相承を産んだ原因と考える。　亨師は此の間違った信仰を打破されんとしたものである。後人、間違う事勿かれ。

故に今後は、口決相承に頼らず、青少年期に充分の勉学をする様、進行しなければならぬ。

昭和五十四年十二月三十日（日）

＊今月二十四日、岡山・妙蓮寺一泊、二十五日、徳島敬台寺住職・河辺慈篤師（弟弟子）の所へ一泊する。翌二十六日午前中、河辺師、顕師猊下になってから、小生の「亨師聴聞記」と、顕師・観妙院早瀬日慈師の云われた事の二つを盾に取り、「宗門は淫祠邪教だ」と云って虫の居処が悪く、顕師と対決しようとして、敬台寺の全部の中、　半分程を荷物を娘・敬子のアパートへ運び、争った。顕師も観妙院もそれに困り、慰留しようとして、顕師も観妙院も敬台寺に来たが、河辺はガンとして意を翻えさず、ヤッと大願寺・早瀬義寛坊が来て解決した。

顕師・観妙院の件とは、次の如くあるという。観妙院（早瀬道応坊・日慈・池袋法道院住職）が生前、堀上人より聞いた事として、次の如くある。それを顕師も亦た聞き、顕師は河辺師に話したのである。

「本門戒壇の御本尊は、日禅授与の御本尊と全く筆法も字配りも、全く同じである」。（日禅授与の本尊は、現在、法道院が応師の時代かに手に入れておる。然して今は観妙院の手に依って本山へ納められた）。

そして、「授与書と本尊部分とは、筆蹟は違って居る」。

そこで堀上人は、生前にそれを指摘され、「本門戒壇の御本尊は偽作されたことは間違いない」と云われた。

河辺師、戒壇の本尊・日禅授与の本尊、共に写真に撮ってあり、対照してみせて呉れた。全く同じであるのにびっくりする。

顕師御登座されて、河辺師に話される。観妙院も写真を呉れて、偽作だと云われる。そこで河辺師は、現猊下も旧総監も、戒壇の御本尊を偽作だと云ったとしたら、これは大問題になる。河辺師はこれを週刊誌に発表し、　キャンペーンをすると息巻いたのである。

河辺師は、今は納まり、顕師・観妙院に心服して居り河辺師は、顕師御登座中は、信義を守る意義から、敬台寺を動かぬと決心したと語らる。

昭和五十四年十二月三十日

そこで、小生、亨師より戒壇の御本尊に就いて聞いた事を思い出した。亨師曰く、

「戒壇の御本尊を何時、彫刻したかと云うことは、宗門の古文書に書かれてあった事